

合同カニテク

JRTT公募で
新技術として評価

土砂付着防止や固化材など3製品

「土」に特化する化学薬品メーカーのテクニカ合同(神戸市、寺尾好太社長、☎078・436・0280)は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構(JRTT)が2022年度に公募した「新幹線鉄道の建設・維持管理」を又下低減に寄与する都市トンネル(シールドトンネル)および掘削トンネルに関する新技術」として、同社が開発した3製品が評価を受けた。

応募のあった12件のうち、材料に関するもの1の区分で整備新幹線事業への適用の可能性がある技術と評価を受けたのは、①マッドスベール、②プラムロックスリース、③ダストシャットの3製品。①は、アクリル系高分子を主成分とする土砂付着防止剤で、ダンプ架台などの機材に、シールド工事や浚渫工事などの建設工事で発生する付着性の強い土砂の付着を防止する技

術。粉体・液体型製品をラインアップにそろえ、既存ユザイからは「対策なしだと運搬後の洗浄が30分、長くて2時間掛かることもある。そうした手間を大幅に解消し、作業の安全性も確保できる」という声や、「積載物の運搬効率が高まる」と好評を得ている。

②は、環境考慮に適する中性固化剤で高含水汚泥や高含水砂礫を対象に、中性域において高強度への土砂改質を短時間で形成する技術となっている。従来泥の改質処理に言及。また、食品残さに自立

性を持たせ、工場内での管理や処分場への荷運びが容易となり、受入基準を満たす性状に改質した事例があるなど、思わぬニーズを掘り起こすことで、納入先を伸ばす。

③は、熱可塑性樹脂を主成分とする薬剤により粉じん・侵食・流出を防ぐ技術だ。土木・解体現場や路面補修工事で発生する粉じんの飛散を抑えるもので、セネコンや産廃収集運搬・中間処理業者等から引き合いが相次いでいるという。

同社担当者は、「当社が独自に開発した製品が環境循環によりインフラ整備を支える技術の一つとして、さまざまな建設現場や中間処理業に役立ててもらいたい」と話した。

同社が独自に開発した製品が環境循環によりインフラ整備を支える技術の一つとして、さまざまな建設現場や中間処理業に役立ててもらいたい」と話した。